

4. 個別の福祉用具に関する知識・技術

4.1 福祉用具の特徴

(1) 形式

- ・ 講義・演習

(2) 時間

- ・ 8時間

(3) 講師要件

- ・ 保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、福祉用具専門相談員、福祉用具プランナー等、介護機器相談指導員、大学院等教員及び前記以外の者でその業績を審査することによって当該科目の担当に適任であると特に認められる者

(4) 目的

- ・ 福祉用具の種類、機能及び構造を理解する。
- ・ 基本的動作や日常の生活場面に応じた福祉用具の特徴を理解する。

(5) 到達目標

- ・ 福祉用具の種類、機能及び構造を概説できる。
- ・ 基本的動作と日常の生活場面に応じた福祉用具の関わりや福祉用具の特徴を列挙できる。

(6) 内容

○ 福祉用具の種類、機能及び構造

※起居、移乗、移動、床ずれ、排泄、入浴、食事・更衣・整容、コミュニケーション・社会参加関連用具及びテクノロジーを活用した機能を有する福祉用具等、最新の情報を踏まえた講義内容とする。

○ 基本的動作と日常の生活場面に応じた福祉用具の特徴

(7) 事前準備と心構え

- ・ 担当する分野(起居、移乗、移動、床ずれ、排泄、入浴、食事・更衣・整容、コミュニケーション・社会参加関連用具等)の福祉用具の種類、機能、構造について十分に理解したうえで講義を行う。
- ・ 本科目は福祉用具の導入により生活を支えるための知識及び技術を学ぶことが目的であるため、それぞれの福祉用具の評価や批評的な講義にならないよう配慮する。
- ・ 介護負担の軽減のみに焦点が偏らないよう配慮し、自立支援や介護予防の視点も重要であることが理解できるようにする。

(8) 指導の視点

- ・ 福祉用具の種類ごとに、基本的動作や日常の生活場面も踏まえ、なぜそのような機能及び構造になっているのかについて理由を添えて説明する。
- ・ 福祉用具の種類や機能及び構造は日々進化するとともに、様々なテクノロジーを搭載した新たな福祉用具も開発されているため、最新の情報を常に提供できるようにする。
- ・ 福祉用具を安全に使用するために福祉用具の機能及び構造における注意事項等を理解し、利用者に説明できるよう、例えば、受講者同士のシミュレーションなどの演習を通して理解を深められるようにすることが求められる。
- ・ 担当講師の個人的見解により、それぞれの福祉用具自体の良し悪しを伝えることは好ましくないため、良し悪しではなく、それぞれの福祉用具における特徴として伝えるよう留意する。
- ・ 福祉用具の種類ごとに、使用場面で想定される基本的動作などを、可能な限り受講者個々が体験できるような演習を行うことが望ましい。
- ・ 起居、移乗、移動、床ずれ、排泄、入浴、食事・更衣・整容、コミュニケーション・社会参加関連用具等に分けて講義を行うことが想定されるが、どの領域においても受講者が理解しやすいように専門用語の言い換え等を行い工夫することが望ましい。
- ・ 可能な限り福祉用具の機能や構造に関する特徴、注意事項等について、福祉用具を見る・触れることで理解を深められることが望ましい。福祉用具に触れる機会がない場合には、福祉用具の特徴について理解が深まるよう、基本的動作や生活場面を踏まえ、福祉用具の製造業者等の動画を活用するなどの工夫をすることが望ましい。

<他科目との関係性>

- ・ 「4.2 福祉用具の活用」につながる知識となるように配慮する。

(9) 講義・演習の進め方

以下に本科目の進め方の例をお示しします。講義・演習の内容、時間配分の参考にしてください。

《特殊寝台、特殊寝台付属品の例(60分)》

指導項目	内容	指導方針	進め方(例)
導入 (5分)	あいさつ 本科目を学ぶ意義の説明 目的と到達目標の共有	本科目を学ぶ意義を伝えたい で、目的と到達目標を共有する。	—
テーマ1 (10分)	○起居動作の理解	基本的動作を生活場面も踏まえて 説明する。	講義・演習
テーマ2 (5分)	○起居関連用具とは ○特殊寝台について ○特殊寝台付属品について	起居関連用具の目的と役割につい て説明する。	講義
テーマ3 (15分)	○特殊寝台の種類 ・機能の特徴	特殊寝台の種類(最新の情報を含 め)の違いと目的や役割を説明す	講義・演習

指導項目	内容	指導方針	進め方(例)
	・構造の特徴 ・機能及び構造の注意事項	る。それぞれの機能や構造について、基本的動作や生活場面を踏まえ解説する。また、機能及び構造の注意事項を含める。	
テーマ4 (20分)	○特殊寝台付属品の種類 ・機能の特徴 ・構造の特徴 ・機能及び構造の注意事項	特殊寝台付属品の種類(最新の情報を含む)の違いと目的や役割を説明する。それぞれの機能や構造について、基本的動作や生活場面を踏まえ解説する。また、機能及び構造における注意事項を含める。	講義・演習
まとめ (5分)	起居関連用具のまとめ	目的、到達目標の理解度の確認の機会とする	講義

(10) 教材・参考資料

- ・ 可能な限り福祉用具の機能や構造に関する特徴、注意事項等について、福祉用具を見る・触れることで理解を深められることが望ましい。
- ・ 基本的動作などは、イメージが湧くように動画を活用することが望ましい。
- ・ 福祉用具の種類などは、イメージが湧くように、福祉用具のカタログや動画を適切に活用することが望ましい。特に機能や構造、機能及び構造における注意事項については、動画を適切に活用することでより理解を深められることが望ましい。
- ・ 外部の動画を活用される際には、著作権、肖像権等に十分に配慮し出典の明記、または使用の許諾などを得ることが必要である。。

(11) 確認ポイント

<input type="checkbox"/> 福祉用具の機能及び構造における注意事項を説明できる。 《特殊寝台、特殊寝台付属品の例》 <input type="checkbox"/> 特殊寝台の役割が理解できている。 <input type="checkbox"/> 特殊寝台の導入で気を付けるべき視点(寝かせきりにしてしまうことなど)を理解できる。 <input type="checkbox"/> モーターの数とベッドの機能と使用の特徴を理解できる。 <input type="checkbox"/> 特殊寝台付属品の目的、機能と使用の特徴を理解できる。
--

4.2 福祉用具の活用

(1) 形式

- ・ 講義・演習

(2) 時間

- ・ 8時間

(3) 講師要件

- ・ 保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、福祉用具専門相談員、福祉用具プランナー等、介護機器相談指導員、大学院等教員及び前記以外の者でその業績を審査することによって当該科目の担当に適任であると特に認められる者

(4) 目的

- ・ 福祉用具の基本的な選定・適合技術を修得する。
- ・ 高齢者の状態像に応じた福祉用具の利用方法を修得する。

(5) 到達目標

- ・ 各福祉用具の選定・適合を行うことができる。
- ・ 高齢者の状態像に応じた福祉用具の利用方法を概説できる。

(6) 内容

- 各福祉用具の選定・適合技術
 - ・ 福祉用具の選定・適合の視点と実施方法
 - ・ 福祉用具の組み立て・使用方法
- 高齢者の状態像に応じた福祉用具の利用方法

(7) 事前準備と心構え

- ・ 担当する分野(起居、移乗、移動、床ずれ、排泄、入浴、食事・更衣・整容、コミュニケーション・社会参加関連用具等)の福祉用具の選定、適合技術、利用方法について十分に理解したうえで講義を行う。
- ・ 「4.1 福祉用具の特徴」との整合性を持った講義及び演習の資料及び内容にする。
- ・ 担当する分野の福祉用具の事故事例等を把握し、講義に含めることが望ましい。

(8) 指導の視点

- ・ 「4.1 福祉用具の特徴」で福祉用具の機能や構造を理解したうえで、利用者の状態像を踏まえた福祉用具の選定・提案の考え方について理解を深めるため、本科目では「講義」を含めて指導を行う。
- ・ 福祉用具の種類別に「4.1 福祉用具の特徴」で学んだ内容(基本的動作や生活場面を含め)を

踏まえ、選定の基本的なポイントを説明する。

- ・ 選定後の適合技術において、利用者の身体状況、使用環境等を踏まえた内容にする。
- ・ 福祉用具の使用方法等については、身体状況、状態像等を踏まえた手順、手法等について理由も含め説明する。
- ・ 福祉用具によっては組み立て方やセッティングの方法も含めて説明する。
- ・ 事故につながるという利用方法なども伝え、安全・安心な福祉用具の使用に対する重要性が理解できるようにする。
- ・ 適合技術などもイラスト、写真、動画などを活用し、理解を深められるようにすることが望ましい。
- ・ 組み立て方、セッティング、使用方法など、手順、手法について、演習(動画など)を通して伝える。
- ・ 可能な限り福祉用具の組み立て、使用方法、事故事例、好ましくない事例、注意事項等などについて、実際に福祉用具を見る・触れる・体験することで理解を深められることが望ましい。福祉用具に触れる機会がない場合には、福祉用具の製造業者、福祉用具関連団体、企業等の動画を適切に活用するなどの工夫をすることが望ましい。
- ・ オンラインで講義を行う場合には、スムーズな演習を行うため、映像に死角が生じないように配慮して事前に撮影及び編集した動画を活用することが望ましい。

<他科目との関係性>

- ・ 「4.1 福祉用具の特徴」との整合性を持った講義内容及び演習にする。

(9) 講義・演習の進め方

以下に本科目の進め方の例をお示します。講義・演習の内容、時間配分の参考にしてください。

《特殊寝台、特殊寝台付属品の例(60分)》

指導項目	内容	指導方針	進め方(例)
導入 (5分)	あいさつ 本科目を学ぶ意義の説明 目的と到達目標の共有	本科目を学ぶ意義を伝え、目的と到達目標を共有する。	—
テーマ1 (15分)	○特殊寝台の選定技術 ○特殊寝台の適合技術	福祉用具の特徴を踏まえた選定技術、利用者の身体状況及び介護状況、使用環境を踏まえた適合技術を伝える。	講義・演習
テーマ2 (15分)	○特殊寝台の組み立て・使用方法 ○事故事例、好ましくない事例、注意事項など	利用者の身体状況及び状態像を踏まえ、手順、使用方法を伝える。 事故につながるような利用方法について説明する。	講義・演習
テーマ3 (5分)	○特殊寝台付属品の選定技術 ○特殊寝台付属品の適合技術	福祉用具の特徴を踏まえた選定技術、利用者の身体状況及び介護状況、使用環境を踏まえた適合技術	講義・演習

指導項目	内容	指導方針	進め方(例)
		を伝える。	
テーマ4 (15分)	○特殊寝台付属品の使用方法 ○事故事例、好ましくない事例、注意事項など	利用者の身体状況及び状態像を踏まえ、手順、使用方法を伝える。 事故につながるような利用方法について説明する。	講義・演習
まとめ (5分)	起居関連用具のまとめ	目的、到達目標の理解度の確認の機会とすること	講義

(10) 教材・参考資料

- ・ 厚生労働省「介護保険における福祉用具の選定の判断基準」
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001285654.pdf>
(厚生労働省 ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 介護・高齢者福祉 > 福祉用具・住宅改修)
- ・ 動画を使用する際には、情報量が多く、手順や細かな内容を把握できないケースが生じやすいことから、例えば、動画で説明する内容をシーン別に静止面として切り出してまとめたマニュアル等を作成し、動画と併せて活用するなど、使用方法等の理解を深める工夫が望まれる。
- ・ 外部の動画を活用する際には、著作権、肖像権等に十分に配慮し出典の明記、または使用の許諾などを得ることが必要である。

(11) 確認ポイント

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 福祉用具の選定・提案の視点を説明できる。
《特殊寝台、特殊寝台付属品の例》
<input type="checkbox"/> 特殊寝台と大転子との関係を理解できている。
<input type="checkbox"/> 背上時のポイント(膝上げから背上げ、背抜きなど)について理解できる。
<input type="checkbox"/> 起き上がり動作の手順・留意事項を理解できる。
<input type="checkbox"/> マットレスの硬さの違いと選定にあたっての留意事項を理解できる。
<input type="checkbox"/> 身体拘束の視点(サイドレールやベッドの配置など)を理解できる。
<input type="checkbox"/> 特殊寝台の事故事例(はさみ込みなど)を理解できる。 |
|---|

4.3 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント

(1) 形式

- ・ 講義・演習

(2) 時間

- ・ 1.5時間

(3) 講師要件

- ・ 理学療法士、作業療法士、福祉用具専門相談員、福祉用具プランナー等、介護機器相談指導員、大学院等教員及び前記以外の者でその業績を審査することによって当該科目の担当に適任であると特に認められる者

(4) 目的

- ・ 福祉用具を安全に利用するうえで必要となるリスクマネジメントの重要性を理解する。
- ・ 福祉用具事故・ヒヤリハットに関する情報収集の方法と重大事故報告の義務と流れを理解する。

(5) 到達目標

- ・ 福祉用具利用のリスクマネジメントについて理解し、事故防止の取組や事故発生時の対応について概説できる。
- ・ 福祉用具を安全に利用するうえでの留意点を理解し、重大事故や利用時に多いヒヤリハットを例示できる。

(6) 内容

- 福祉用具利用安全に関わる情報収集の重要性と具体的方法
 - ・ 消費生活用製品安全法における重大事故の通知・報告から公開までの流れ
 - ・ 指定基準による事故対応と報告
 - ・ 重大事故の情報収集、ヒヤリハット情報収集
- 福祉用具事業者の事故報告義務
 - ・ 事故報告の仕組みと事故報告様式
 - ・ 事故要因分析と再発防止策
- 危険予知とリスクマネジメントの取組
 - ・ 福祉用具を安全に利用するうえでの留意点(誤った使用方法、典型的な事故や重大事故)
 - ・ 様々な福祉用具を組み合わせて活用している等、実際の介護場面に潜む危険の予測
※演習と組み合わせる

(7) 事前準備と心構え

- ・ 福祉用具による事故について、情報公表機関のホームページ等で最新の事故内容や要因について傾向を把握しておく。

- ・ 福祉用具貸与計画等の「留意事項」にて、福祉用具の利用における注意事項の記載及び説明を行うため、福祉用具貸与計画等の書式や運用、記載内容を理解しておく。
- ・ モニタリング時に安全利用における状況確認や改めて注意喚起を行うため、モニタリングの運用やモニタリングシートの記載内容を把握しておく。

(8) 指導の視点

- ・ 実際の介護場面に潜む危険の予測(危険予知トレーニング)とその考え方について説明する。
- ・ 福祉用具事故・ヒヤリハットに関する情報収集の方法と事故報告の流れについて説明する。
- ・ 特に事故リスクの高い事例(状態:認知症・老老介護・独居、種目:電動車いす・特殊寝台・リフトなど電動系の種目)を明示し、具体的な事故事例等を交えてリスクマネジメントの重要性を高められるように説明する。
- ・ 事故の発生は利用者だけでなく、貸与事業者や従業員への損害も与えてしまうことを伝える。
- ・ 演習で行うことを事前に説明し、受講者がその心構えを持って講義を受けられるようにする。
- ・ グループワークでは、危険予知トレーニングの活用や、イラストによるヒヤリハット研修教材を活用する。用具の種目ごとに起こりえるヒヤリハットや事故について整理するため、講義でも実際の福祉用具を用いて説明することが望ましい。

<他科目との関係性>

- ・ この後の「5. 福祉用具に係るサービスの仕組みと利用者の支援に関する知識及び支援に関する総合演習」に関連するため、講義内容を把握しつながりを意識して伝える。

(9) 講義・演習の進め方

以下に本科目の進め方の例をお示しします。講義・演習の内容、時間配分の参考にしてください。

指導項目	内容	指導方針	進め方(例)
導入 (5分)	あいさつ 本科目を学ぶ意義の説明 目的と到達目標の共有	本科目を学ぶ意義を伝えたいうえで、目的と到達目標を共有する。事故増加の傾向、また事故発生により利用者や事業者が大きな損害を受けること、また福祉用具専門相談員の取組により未然に防げるものがあるということを伝える。	—
テーマ1 (10分)	○福祉用具の事故とその要因 ・ 留意点(誤った使用方法、典型的な事故や重大事故) ・ 種目別の起こりやすい事故 ・ ヒヤリハット事例	最新の事故情報や統計資料を提示し、特に発生することが多い事故事例を説明することが望ましい。	講義

指導項目	内容	指導方針	進め方(例)
テーマ2 (10分)	○福祉用具事業者の事故報告義務 ・ 事故報告の仕組みと報告様式 ・ 情報収集の重要性と具体的方法 ・ 事故要因分析と再発防止策	福祉用具の事故・ヒヤリハットに関する情報収集の方法と事故報告の流れを説明する。 実際の自治体における報告範囲や報告書を示して具体的に説明する。	講義
テーマ3 (20分)	○危険予知とリスクマネジメント ・ 利用者の特性における事故リスク ・ 搬入・設置時の商品確認 ・ 利用者への注意事項説明 ・ モニタリングでの確認 ・ 多職種連携による事故予防 ・ 貸与事業所による品質管理	特に事故リスクが高い事例を明確にする。(認知症・老老介護・独居・電動系の種目など) 一部実機を用いて、モニタリングでの点検や再説明のポイントを示す。 また他サービスとどのように連携すべきか具体的に解説する。	講義
テーマ4 (40分)	○起こりえる事故やヒヤリハット	5分:演習方法の説明 「練習事例」を配布する。 ワークシートの構成、検討の視点、検討結果の記載方法・内容について説明する。 10分:個人ワーク 「演習事例1～4」いずれかのワークシートを配布する。「練習事例」を踏まえて受講者個人での気づきを促す。(気づきの視点は講師向けの解説例を参考に) 20分:グループワーク 個人ワークで検討した内容をグループで共有し、受講者同士で気づきを共有する。 5分:発表・まとめ グループの中から代表者を決め、全体に向けて発表する。 講師は講師向け解説例を基に、各発表の講評をする。 最後に解答例を配布し、講師が解説をする。	演習

指導項目	内容	指導方針	進め方(例)
まとめ (5分)	目的・到達目標の振り返り、理解度の確認	利用者の自立を支援するその前提として事故を予防する必要がある、それに取り組みたいと思わせる動機づけを行う。	講義

(10) 教材・参考資料

<情報収集関連>

- ・ 福祉用具事故・ヒヤリハットに関する情報収集の方法と事故報告の流れ
 - 厚生労働省 第4回介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目のあり方検討会「参考資料2 施策関係参考資料」(P.8)

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000942766.pdf>

(厚生労働省 ホーム > 政策について > 審議会・研究会等 > 老健局が実施する検討会等 > 第4回介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目のあり方検討会に関する資料)
- ・ 福祉用具における事故の傾向や統計資料(各業界団体等の情報)
 - 独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)

<https://www.nite.go.jp/index.html>
 - 公益財団法人テクノエイド協会

<https://www.techno-aids.or.jp/>
 - 一般社団法人日本福祉用具供給協会

<https://www.fukushiyogu.or.jp/>
 - 一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会(JASPA)

<https://www.jaspa.gr.jp/>
- ・ 直近での事故事例の一覧(各業界団体等の情報 ※上記参照)
- ・ 一般社団法人日本福祉用具供給協会「福祉用具貸与事業所向けの事故報告書(案)」

https://fukushiyogu.or.jp/guide/detail_2022_houkokusyo.html

(一般社団法人日本福祉用具供給協会 トップページ > 事業案内 > 調査研究 > お役立ち資料 > 資料詳細 > 介護保険における福祉用具の利用安全を推進するための調査研究事業 報告書)
- ・ 厚生労働省「介護保険施設等における事故の報告様式等について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/001342369.pdf>

(厚生労働省 ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 介護・高齢者福祉 > 介護・高齢者福祉分野のトピックス > 介護保険最新情報掲載ページ > 介護保険最新情報 Vol.1332)

<啓発資料等>

- ・ 福祉用具の留意点(種目全般、種目別)
 - 厚生労働省「介護保険における福祉用具の選定の判断基準」

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001285654.pdf>

(厚生労働省 ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 介護・高齢者福祉 > 福祉用具・住宅改修)
- ・ 一般社団法人日本福祉用具供給協会「福祉用具の利用安全のための福祉用具貸与事業所の体制・多職種連携を強化するための手引き」

- ・ https://fukushiyogu.or.jp/guide/detail_2023_houkokusyo.html
(一般社団法人日本福祉用具供給協会 トップページ > 事業案内 > 調査研究 > お役立ち資料 > 資料詳細 > 介護保険における福祉用具の利用安全及びサービスの質の向上に資する事業所の体制を強化するための調査研究事業 報告書)
- ・ 各業界団体からリリースされている福祉用具の事故予防に関する啓発資料

<演習教材>

- ・ イラストによるヒヤリハット研修教材
 - 公益財団法人テクノエイド協会 福祉用具「事故・ヒヤリハット」情報 研修教材
<https://www.techno-aids.or.jp/hiyari/teaching.php>
(テクノエイド協会 ホーム > 福祉用具「事故・ヒヤリハット」情報 > 研修教材)
- ・ 演習教材 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント
(令和6年度老人保健健康増進等事業「福祉用具専門相談員指定講習カリキュラムの適切な実施に向けた調査研究事業」成果物)
https://www.zfssk.com/sp/1302_chosa/report_pdf_2025/risk_management.pdf
(全国福祉用具専門相談員協会 トップページ > ふくせんとは > 調査研究事業 > 令和6年度)

<動画(担当講師向け)>

- ・ 福祉用具の安全利用とリスクマネジメント
(令和6年度老人保健健康増進等事業「福祉用具専門相談員指定講習カリキュラムの適切な実施に向けた調査研究事業」成果物)
<https://www.youtube.com/watch?v=jrfuI0dcuck>
(全国福祉用具専門相談員協会 トップページ > ふくせんとは > 調査研究事業 > 令和6年度)

(11)確認ポイント

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 事故情報の公表機関や収集方法を理解できている。
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応や報告の進め方を理解できている。
<input type="checkbox"/> 代表的な重大事故やその要因、ヒヤリハット事例を列挙できる。
<input type="checkbox"/> 事故予防のためのモニタリングでのチェックポイントを把握できている。
<input type="checkbox"/> 利用者への説明の際のコミュニケーションにおける注意点を把握できている。 |
|---|